



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Operations Agent

ソフトウェアバージョン: 12.01

Windows®、Linux、HP-UX、Solaris、AIX オペレーティングシステム用

リリースノート

ドキュメント リリース日: 2017 年 8 月
ソフトウェアリリース日: 2017 年 8 月

ご注意

保証について

Hewlett Packard Enterprise Development Company, L.P. 製品およびサービスに関する保証は、これらの製品およびサービスに付随する明示的保証書に記載された内容に限定されます。本文書には、追加の保証を規定している箇所はありません。HPE は、本文書に含まれる技術的または編集上の誤りや遺漏に対して、責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

法律上の権利の制限について

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPE から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づいて米国政府にライセンスが付与されます。

著作権について

© Copyright 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

本書のタイトルページには、以下の識別情報が含まれています。

- ・ ソフトウェアバージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ・ ドキュメントリリース日付。ドキュメントがアップデートされるたびに更新されます。
- ・ ソフトウェアリリース日付。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日付を示します。

最新のアップデートを確認したり、ドキュメントの最新エディションを使用しているかどうかを確認したりするには、以下の URL にアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

このサイトでは、HPE Passport への登録とサインインが必要となります。HPE Passport ID を登録するには、次の URL にアクセスしてください。 <https://hpp12.passport.hpe.com/hppcf/createuser.do>

または、HPE ソフトウェアサポートページ上部の登録リンクをクリックしてください。

また、適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいた場合は、アップデート版または新版をお送りします。詳細は、正規販売代理店にお問い合わせください。

サポート

次の HPE ソフトウェアサポート オンラインの Web サイトにアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

この Web サイトには HPE ソフトウェアの製品、サービス、サポートに関する詳細情報とコンタクト先が示してあります。

HPE ソフトウェアサポート オンラインでは、セルフソルブ技術情報を提供しています。ビジネスの管理に必要なインタラクティブな技術サポート ツールに、すばやく効率的にアクセスすることができます。サポート Web サイトを使用することにより、重要なサポート カスタマとして以下のメリットを受けることができます。

- ・ 興味のある知識に関するドキュメントを検索する
- ・ サポート ケースおよび機能強化要求を提出し追跡する
- ・ ソフトウェアのパッチをダウンロードする
- ・ サポート契約を管理する
- ・ HPE サポートの連絡先を調べる
- ・ 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- ・ 他のソフトウェアカスタマと議論を始める
- ・ ソフトウェアトレーニングに関して調査し登録する

ほとんどのサポート領域では、HPE Passport ユーザーとして登録し、サインインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約が必要となります。HPE Passport ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hpe.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルの詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels>

HPE Software Solutions Now は、HPSWのソリューションと統合に関するポータル Web サイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHPE製品ソリューションを検索したり、HPE 製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトの URL は <https://softwaresupport.hpe.com/> です。

目次

HPE Operations Agent リリースノート	6
本リリースの更新内容	7
12.01	7
Extended Collection Builder and Manager (ECBM) のサポート	7
メトリック ストリーミング	7
HPE Operations Agent Health View の認証	7
インストーラの機能拡張	7
新たに導入されたメトリック	8
その他の機能拡張	8
12.00	9
インストーラの機能拡張	9
パフォーマンスの更新	10
メトリック データストア	10
データベース ファイルにより使用されるディスクスペースの制御	11
プロキシ データソース	11
Extended Collection Builder and Manager	11
parm ファイルの更新	12
新しいプロセス	13
コマンド ライン ツールの更新	13
Extract ツールの更新	14
Utility ツールの更新	14
カスタム データ ログ記録の機能拡張	14
データソース統合の機能拡張	15
アプリケーション プログラミング インターフェイス	15
ベースライン計算	15
その他の機能拡張	16
SNMPトラップ インターセプタの機能拡張	16
perfalarm	16
HPE Operations Agent Health View	17
HPE Operations Agent から HPE vPV への X86 仮想テクノロジーの進化	17
HPE Operations Agent の機能拡張	18
廃止のお知らせ	22
既知の問題	23
HPE OMi 管理パック	23
パフォーマンス収集コンポーネント	23
インストールとアップグレード	25
Perl	27
HPE Operations Smart Plug-in (HPOM SPI)	31
他の製品との統合	32
Health View	33
HPE Computesensor	33
その他	34

HP Computesensor Standalone Packages (vPV に付属) と HP Operations Agent 12.00 の共存	35
制限事項	36
ドキュメントのフィードバックを送信	41

HPE Operations Agent リリースノート

Windows®、Linux、HP-UX、Solaris、AIX オペレーティングシステム用

ソフトウェアバージョン: 12.01

発行日: 2017 年 8 月

このドキュメントでは、HPE Operations Agent の変更の概要を説明します。次の情報が記載されています。

- [本リリースの更新内容](#)
- [既知の問題](#)

注: HPE Operations Agent 12.01 は次の言語にローカライズされています。英語、フランス語、ドイツ語、日本語、ロシア語、韓国語、簡体字中国語、スペイン語。

サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、および他の製品との統合の一覧については、「[サポート マトリックス](#)」を参照してください。

本リリースの更新内容

12.01

Extended Collection Builder and Manager (ECBM) のサポート

パフォーマンス収集コンポーネントは Windows のパフォーマンスカウンタにアクセスできます。パフォーマンスカウンタは、システム、システム上のアプリケーション、デバイスパフォーマンスを測定するのに使用します。Extended Collection Builder and Manager (ECBM) を使用して、特定のパフォーマンスカウンタを選択し、データ収集を構築することができます。

詳細については、『HPE Operations Agent ユーザーガイド』を参照してください。

注: ECBM の機能は、HPE Operations Agent 12.00 では使用できません。

メトリックストリーミング

HPE Operations Agent を使用すると、カスタムメトリックをデフォルトのシステムパフォーマンスメトリッククラスと共にメトリックデータストアに記録できます。

HPE Operations Agent 12.01 では、メトリックストリーミング機能を利用することで、カスタムメトリックとシステムパフォーマンスメトリックをストリーミングで使用することもできます。メトリックストリーミングデータ収集は、**メトリックストリーミング設定ポリシー**を使用して設定できます。

メトリックストリーミングを使用すると、メトリックデータをターゲットのサブスクリイバ (例: パフォーマンスエンジン) にストリーミングして、そのデータをグラフの作成や分析に使用できます。

詳細については、『HPE Operations Agent ユーザーガイド』を参照してください。

HPE Operations Agent Health View の認証

HPE Operations Agent Health View のユーザー認証は、Microsoft Active Directory または OpenLDAP を使用して提供されます。LDAP は、HPE Operations Agent Health View のダッシュボードビューから設定できます。

詳細については、『HPE Operations Agent ユーザーガイド: Health View』を参照してください。

インストーラの機能拡張

- Linux にホットフィックスをインストールするための RPM 形式のサポート
- HP-UX インストール用の単一のデポパッケージ

新たに導入されたメトリック

Linux および Windows での BYHBA メトリック

BYHBA メトリックが Linux、Windows、および HP-UX の各システムで使用できるようになりました。

HP-UX での BYCORE メトリック

BYCORE メトリックが Linux、Windows、HP-UX、および Solaris の各システムで使用できるようになりました。

HP-UX での PRM メトリック

PRM (Process Resource Manager) メトリックが HP-UX システムで使用できるようになりました。

その他の機能拡張

- LCore Java コンポーネントの FIPS 140-2 準拠。
- OpenSSL バージョンのアップグレード。

12.00

- インストーラの機能拡張
- パフォーマンスの更新
- その他の機能拡張
- HP Operations Agent Health View
- HP Operations Agent から HP vPV への X86 仮想テクノロジーの進化

インストーラの機能拡張

次のいずれかの方法を使用して、大規模な環境への HP Operations Agent のデプロイメントとインストールを簡略化できます。

- **エージェント インストールリポジトリを使用した HP Operations Agent のインストール**

標準的な環境では、いくつかのオペレーティングシステム上に複数のバージョンの HP Operations Agent がデプロイされています。Linux オペレーティングシステム上にエージェントインストールリポジトリをインストールし、リポジトリにある異なるバージョンの HP Operations Agent を Windows および Linux オペレーティングシステム上にデプロイできます。

エージェント インストールリポジトリは、次のいずれかを使用して環境内にホストできます。

- **スタンドアロンのエージェント インストールリポジトリ**

エージェント インストールリポジトリを Linux マシン上にスタンドアロンのインストーラとしてインストールすることで、任意の Linux ホスト上にリポジトリを設定できます。同じリポジトリが、HP Operations Agent および Lcore パッケージの Yum リポジトリの役割を果たすこともできます。

- **仮想アプライアンスとしてのエージェント インストールリポジトリ**

エージェント インストールリポジトリを仮想アプライアンスとして使用でき、VMware 環境にデプロイできます。

詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Installing HP Operations Agent using Agent Installation Repository」の章を参照してください。

- **Puppet 環境を使用した HP Operations Agent のインストール**

Puppet マスタおよび Puppet クライアントが設定されている環境で、Puppet を使用して HP Operations Agent をインストールできます。

HP Operations Agent パッケージは、エージェント インストールリポジトリに保存されます。Puppet マスタ上にある Puppet モジュールは、エージェント インストールリポジトリから HP Operations Agent パッケージまたは zip ファイルを取得し、Puppet クライアント (Linux ノード) 上に HP Operations Agent パッケージをデプロイします。

詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Installing HP Operations Agent using the Puppet Environment」の章を参照してください。

- **HP Server Automation を使用した HP Operations Agent のインストール**

HP Server Automation を使用して HP Operations Agent をデプロイすることができます。HP Operations Agent をインストールするターゲットには、Server Automation エージェントが必ずインストールされている必要があります。詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Installing HP Operations Agent Using HP Server Automation」の章を参照してください。

- **シングルステップ インストーラを使用した HP Operations Agent のインストール**

HP Operations Agent 12.00 インストーラを使用すると、HP Operations Agent 12.00 のベースバージョンとパッチおよびホットフィックスを、1 つのステップでインストールできます。インストーラはまず HP Operations Agent 12.00 のベースバージョンをシステムにインストールし、次にパッチおよび利用可能なホットフィックスをインストールします。シングルステップ インストールの詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Installing HP Operations Agent (Full and Differential Packages) using Single Step Installer」の章を参照してください。

- **プロファイルファイルを使用した HP Operations Agent のインストール**

HP Operations Agent 12.00 では、インストール時に設定可能なすべての値を、プロファイルファイルの新しい名前空間 `nonXPL.config` の下に追加する必要があります。名前空間 `nonXPL.config` の下に追加された設定可能な値は、`xpl.config` 設定で更新されません。

詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Installing HP Operations Agent using Profile File」の章を参照してください。

- **ZIP メディアを使用した HP Operations Agent のインストール**

ZIP メディアを作成し、HP Operations Agent をノードに手動でインストールできます。詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Reducing the Installation Time」の章を参照してください。

パフォーマンスの更新

HP Operations Agent のデータ収集、データ ログ記録、モニタ機能は、次の機能によって更新されています。

メトリック データストア

HP Operations Agent 12.00 では、CODA、SCOPE、DSI などの複数の独自仕様のデータストアが、SQLite を使用する RDBMS (Relational Database Management System) に基づ

くデータストアに統合されました。SQLite データストアでは、データのメンテナンスが容易であり、破損した場合でも最小限の損失でデータを回復できます。

CODA および Scope プロセス (scopeux および scopent) は、**oacore** プロセスと呼ばれる 1 つのプロセスに統合されています。**oacore** プロセスは、システム パフォーマンスおよびカスタム データに対する読み取りと書き込みの両方のインターフェイスを提供します。

oacore プロセスのデフォルト動作は、設定変数を使用して指定できます。設定変数の詳細については、『HP Operations Agent リファレンスガイド』の「HPE Operations Agent の設定変数」の章の「oacore プロセスの設定変数」の項を参照してください。

メトリック データストアの詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』を参照してください。

注: HP Operations Agent 12.00 のすべてのアプリケーションは、**oacore** プロセスが実行されている場合のみ動作します。

データベース ファイルにより使用されるディスクスペースの制御

パフォーマンス収集コンポーネントには、データベース ファイルの自動管理機能があります。データストアに記録されるデータのすべてのクラスに対して、クラス固有のデータベース ファイルが作成されます。

parm ファイルに指定された最大サイズに達した場合、デフォルトのパフォーマンス メトリック クラスを記録するデータベース ファイルはロールオーバーされます。**parm** ファイルにロールオーバーのサイズが指定されていない場合、データベース ファイルは最大サイズの 1 GB に達したときにロールオーバーされます。

カスタム データを記録するデータベース ファイルの最大サイズは、デフォルトで 1 GB に設定されています。このサイズは設定できません。これらのデータベース ファイルは、最大サイズの 1 GB に達するとロールオーバーされます。

ロールオーバーの際には、古い方から 20% のデータがデータベース ファイルから削除されます。

データベース ファイルに使用されるディスクスペースの制御の詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「データ収集の管理」の章を参照してください。

プロキシ データソース

1 つのデータソースだけを読み取り専用モードでホストできます。プロキシ モードでは、メトリック データストアへのデータ ログ記録は完全に無効になります。別のシステムのデータベース ファイルをデータソースとしてホストする方法の詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「HP Operations Agent 12.xx と以前のバージョンの比較」の章を参照してください。

Extended Collection Builder and Manager

この機能は、HP Operations Agent 12.00 ではサポートされません。

parm ファイルの更新

parm ファイルには、特定のパフォーマンス測定をログに記録するためのデータコレクタに対する指示が含まれます。**parm** ファイルの機能拡張は次のとおりです。

パラメータ	説明
javaarg	このパラメータは、Windows と UNIX の両方のプラットフォームで有効です。
cachemem	<p>AIX マシンでは、cachemem パラメータを free (f) に設定して、topas コマンドに一致させる必要があります。</p> <p>Solaris マシンでは、cachemem パラメータは ZFS の Adaptive Replacement Cache (ARC) にのみ適用されます。</p> <p>cachemem パラメータはデフォルトでは user (u) に設定されます。parm ファイルでこのパラメータを free (f) に設定した後で、データコレクタを再起動します。parm ファイルの cachemem パラメータが free に設定されている場合、GBL_MEM_UTIL は ZFS ARC を除外します。</p>
スコープトランザクション	HP Operations Agent 12.00 では、スコープトランザクションはログに記録されず、Scope_Get_Process_Metrics および Scope_Get_Global_Metrics も記録されません。
size	<p>デフォルトのパフォーマンスメトリッククラスを記録するデータベースファイルのサイズは、parm ファイルに指定された最大サイズに依存します。parm ファイル内のサイズ指定を変更した場合、oacore は起動時のみそれを検出します。</p> <p>parm ファイルに指定された最大サイズに達した場合、クラスのデータベースファイルはロールオーバーされます。ロールオーバーの際には、古い方の 20% のデータが削除されます。parm ファイルに size が指定されていない場合、データベースファイルは最大サイズの 1 GB に達したときにロールオーバーされます。</p> <p>カスタムデータを記録するデータベースファイルの最大サイズは、デフォルトで 1 GB に設定されています。このサイズは設定できません。</p> <p>データベースファイルに使用されるディスクスペースの制御の詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「データ収集の管理」の章を参照してください。</p>
mainttime	このパラメータはサポートされません。
days	このパラメータはサポートされません。

maintweekday	このパラメータはサポートされません。
proccmd	<p>このパラメータはすべてのプラットフォームで有効です。proccmd パラメータは、プロセスコマンドのデータストアへの記録を有効にします。</p> <p>デフォルトでは、このプロセスの値は0に設定されており、プロセスコマンドの記録は無効になっています。プロセスコマンドの記録を有効にするには、このパラメータの値を1に設定します。</p> <p>proccmd パラメータの記録は、このパラメータの値が1以上の場合にオンになります。記録されるプロセスコマンドの長さは、このパラメータに指定された値に関わりなく、常に4096です。</p>

parm ファイルの詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「データ収集の管理」の章の「parm ファイルの使用」の項を参照してください。

新しいプロセス

HP Operations Agent 12.00 では次のプロセスが追加されています。

- **oacore**

CODA および **scope** プロセス (scopeux および scopent) は、**oacore** と呼ばれる1つのプロセスに統合されています。**oacore** プロセスは、システムパフォーマンスおよびカスタムデータに対する読み取りと書き込みの両方のインターフェイスを提供します。

oacore プロセスは、ovpa スクリプトによって呼び出されます。**parm** ファイルに記述された指示に基づいて、**oacore** データコレクタはシステム全体のパフォーマンスおよび状況データを継続的に収集し、収集したデータをメトリックデータストアに記録します。

- **hpsensor**

rtmd プロセスは hpsensor プロセスに置き換えられました。rtmd の XPL 設定は以前のバージョンと互換性がなく、HP Operations Agent を 11.xx から 12.00 にアップグレードすると動作しなくなります。hpsensor プロセスには、セキュリティ (SSL) を使用するのための同様の XPL 設定があります。

hpsensor プロセスを使用すると、リアルタイムのパフォーマンスメトリックに、セキュアな通信チャンネルを通じてローカルまたはリモートでアクセスできます。

コマンド ライン ツールの更新

HP Operations Agent 12.00 では、Utility および Extract プログラムの実行はコマンドラインモードでのみサポートされます。インタラクティブモードでの Utility および Extract コマンドの実行は HP Operations Agent 12.00 ではサポートされません。

Extract ツールの更新

Extract プログラムは、HPE Operations Agent のデータストアに記録された履歴データの取得と分析に使用します。Extract プログラムはエクスポート機能を実行します。このプログラムは、データストアからデータを読み取り、結果を ASCII 形式の出力ファイルにエクスポートします。

HP Operations Agent バージョン 11.xx から 12.00 へのアップグレードの際に、CODA データベースファイル、SCOPE ログファイル、DSI ログファイルに記録されているデータは、読み取り専用モードで保持されます。Extract プログラムは、ログファイルに基づくデータストアとメトリックデータストアの両方からデータを読み取ることができます。

Extract プログラムの機能拡張は次のとおりです。

- 新しいメトリック クラス Host Bus Adapter (HBA) が HBA データのエクスポート用に追加されました。

Extract コマンドのオプション

-h	エクスポートする HBA 詳細データを指定します。
-H	エクスポートする HBA 要約データを指定します。

- bycore データのエクスポート用に、メトリック クラス core が追加されています。

Extract コマンドのオプション

-x	エクスポートするコア詳細データを指定します。
-X	エクスポートするコア要約データを指定します。

Extract プログラムの詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「Extract プログラムの使い方」の章を参照してください。

Utility ツールの更新

Utility プログラムは、収集パラメータ (parm) ファイルおよびアラーム定義 (alarmdef) ファイルに関する情報を管理し、レポートするためのツールです。

Utility プログラムに対する変更は次のとおりです。

- Resize コマンドはサポートされません。
- 次の Utility コマンドはサポートされません。
start、stop、exit、guide、logfile、menu、sh、show

Utility プログラムの詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「utility プログラムの使い方」の章を参照してください。

カスタム データ ログ記録の機能拡張

カスタム データ ログ記録のプロセスが、DSI および送信 API によって拡張されています。

注: カスタム データを メトリック データストアに記録するには、API を使用することを推奨します。

データソース統合の機能拡張

DSI プロセスで収集されたデータは、メトリック データストアに記録されます。

注: DSI がカスタム データを収集するためには、**oacore** プロセスが実行されている必要があります。

以前のバージョンとの互換性のため、コマンド ラインでは引き続きログ ファイル引数がサポートされます。ログ ファイル名は次のパスから抽出され、データソース名と見なされます。

```
sdlcomp <class specification file> <logfile name>
```

HP Operations Agent をバージョン 11.xx から 12.00 にアップグレードした場合、メタデータまたはデータ記録のフォーマットは古いログ ファイルからメトリック データストアにコピーされます。

DSI プログラムの詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「データソース統合の概要」の章を参照してください。

アプリケーションプログラミング インターフェイス

カスタム データのログ記録のプロセスは、API の使用によって簡略化されています。API を使用することで、カスタム データをメトリック データストアにシームレスに記録できます。API を使用することで、64 ビット データタイプおよびマルチインスタンス データをデータストアに記録できます。

注: API を使用してメトリック データストアにデータを記録できるのは、**oacore** プロセスが実行されている場合だけです。

詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「アプリケーションプログラミング インターフェイスの使用」の章を参照してください。

ベースライン計算

ベースライン計算とは、メトリック データストアに記録された履歴データに基づいて、基準値を計算して返すプロセスです。特定の期間のベースライン データを計算するには、前の週の対応する期間に収集されたメトリック データが用いられます。ベースライン データは、1 時間ごとに計算され、メトリック データストアに保存されます。

ベースライン データは次の用途に用いられます。

- 毎日のパフォーマンスを監視するための基準値の設定
- パフォーマンスの傾向を分析するための基準値の設定
- リソース使用率のパターンを分析するための最適なしきい値の動的な設定

HP Operations Agent によって計算されたベースライン データは、SI-AdaptiveThresholdingMonitor ポリシーによって、パフォーマンスとリソース使用率を監視するために用いられます。

ベースライン データと、SI-ConfigureBaselining ポリシーまたは SI-AdaptiveThresholdingMonitor ポリシーで設定された偏差 (N) を組み合わせることで、変化に柔軟に対応する適応監視および適応しきい値設定が可能になります。適応しきい値設定を使用すれば、最適なしきい値を動的に計算できます。

ベースライン計算の詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「ベースライン計算の概要」の章を参照してください。

その他の機能拡張

HP Operations Agent 12.00 のその他の機能拡張のうちのいくつかを次に示します。

SNMPトラップ インターセプタの機能拡張

SNMPトラップ インターセプタは、リモート管理ステーションまたは SNMP 対応デバイスから出力される SNMPトラップを収集し、構成に基づいて適切なイベントを生成できます。SNMPトラップ インターセプタの機能拡張は次のとおりです。

- **opctrapi** プロセスは、SNMPv1、SNMPv2、SNMPv3トラップおよび通知メッセージを傍受するように設定されています。
- **opctrapi** プロセスは、varbind のオブジェクト ID (OID) または varbind の位置に基づいて SNMPトラップを傍受できます。
- 測定しきい値ポリシーに特定のパラメータを追加することにより、監視エージェント コンポーネント (**opcmona**) を変更して、SNMPv3Get を実行させることができます。

注: SNMP_SESSION_MODE 設定変数は現在のバージョンではサポートされません。

詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド』の「HP Operations Agent の使用」の章を参照してください。

perfalarm

HP Operations Agent バージョン 12.00 の新規インストール後は、アラーム発生サーバー (perfalarm) がデフォルトで無効になっています。

HP Operations Agent をインストールする前に perfalarm を有効にするには、プロファイル ファイルで変数 **ENABLE_PERFALARM** を **TRUE** または **true** に設定してから、プロファイル ファイルを使用して HP Operations Agent をインストールします。

プロファイル ファイルなしで HP Operations Agent をインストールする場合は、**alarmdef** ファイルを /opt/perf/newconfig から var/opt/perf/ にコピーして、**perfalarm** を有効にします。

HP Operations Agent をインストールした後で perfalarm を有効にするには、コマンドライン オプションを使用します。

HP Operations Agent バージョン 11.xx から 12.00 にアップグレードした場合、perfarm は以前の設定のとおり動作します。

perfarm を有効にする方法の詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Installing HP Operations Agent using Profile File」の章を参照してください。

HPE Operations Agent Health View

HP Operations Agent Health View は、HP Operations Agent の状況の概要を簡単に表示できる状況監視ツールです。

HP Operations Agent Health View は、特に多数の HP Operations Agent が複数のノードにデプロイされている複雑な環境で重要な役割を果たします。たとえば、特定の管理ノード上で、状況またはポリシーパラメータのいずれかが失敗したか、またはいずれかのプロセスで問題が発生しても、その管理ノードからアラートやメッセージが受信されない場合があります。

HP Operations Agent Health View を使えば、複数の管理ノードがある複雑な環境に発生した問題をすばやく特定できます。

注: HPOM 管理サーバーを Health View サーバーとして設定することも、HPOM 管理サーバー以外のサーバーに HP Operations Agent Health View をインストールすることもできます。

HP Operations Agent Health View には、次の機能があります。

- Health View に設定されているすべての HP Operations Agent の状況を、統合されたダッシュボードに表示します。
- 各管理ノードにドリルダウンして、使用中の HP Operations Agent プロセスおよびリソースのリストを表示できます。
- 各 HP Operations Agent プロセスにドリルダウンして、状況およびポリシーパラメータに関連する問題を特定できます。

HPE Operations Agent から HPE vPV への X86 仮想テクノロジーの進化

HP Operations Smart Plug-in for Virtualization (VI SPI) および HP OMi Management Pack for Infrastructure (OMi MP for Infrastructure) ユーザーは、VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、KVM、Xen などの x86 仮想化テクノロジー用の Virtualization Performance Viewer (HP vPV) の監視機能のみのエディションの使用を開始することができます。

HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure バージョン 12.00 の更新内容は次のとおりです。

- Operations Agent Virtual Appliance は販売停止になります。
- VI SPI は x86 仮想化をサポートしません。

x86 仮想化テクノロジーについては、HP Operations Agent 11.1x が廃止になるまで、引き続き VI SPI および、OMi Management Pack for Infrastructure の仮想化コンポーネントを使用できます。x86 仮想化以外のテクノロジー (HPVM、AIX、Solaris) については、引き続き VI SPI および VI Management Pack を使用できます。

HP vPV へのテクノロジーの進化によって次のような主な利点を得られます。

- 拡張性と相互運用性の向上
- メトリックの対象範囲の拡大

テクノロジーの進化により、HP vPV で同様の置き換え機能を使用できると共に、HP vPV のプレミアムエディションでは、物理、仮想、およびクラウドテクノロジーのトラブルシューティングの効率を向上させ、処理能力を最適化することができます。

詳細については、hp.com/go/vpv を参照してください。

HPE Operations Agent の機能拡張

最新バージョンの HP Operations Agent は、次の機能が拡張されています。

番号	機能拡張要求	説明
1	QCCR1A70322	SNMPトラップインターセプタ opctrapi は、varbind のオブジェクト ID に基づいた SNMPトラップの処理をサポートするように機能拡張されています。
2	QCCR1A95853	MAC アドレスの詳細を実装する GBL_MAC_ADDR_LIST および BYNETIF_MAC_ADDR メトリックがすべてのプラットフォームに追加されています。
3	QCCR1A104981	HP Operations Agent をクラスターノードにインストールしているときに、CLUSTER_LOCAL_NODENAME が conf.cluster 名前空間に自動的にセットされます。
4	QCCR1A119191	HP-UX プラットフォームで HBA メトリックが記録されます。
5	QCCR1A129081	現在のリリースでは、 opctrapi は SNMPv3 トラップと通知メッセージのどちらも傍受できます。
6	QCCR1A132039	parm ファイルの proccmd パラメータの上限が 400 万に増やされました。

7	QCCR1A138558	プロセスが起動または停止するたびに、OvCtrl デーモン (ovcd) はプロセス名、PID などのプロセスの詳細を system.txt に記録します。
8	QCCR1A149755	HP Operations Agent のインストールとデプロイメントのベスト プラクティスが『インストールガイド』に記載されています。
9	QCCR1A145541	PROC_PROC_NAME の長さが 16 文字から 255 文字に増やされています。
10	QCCR1A147550	ファイルシステム メトリックの拡張リストがメトリック データストアに記録されます。
11	QCCR1A147667	プロファイル ファイルで IGNORE_LOCALE=True を設定すると、オペレーティング システムの言語とは無関係に HP Operations Agent は英語に設定されます。
12	QCCR1A148589	HP Operations Agent は、10 GB ネットワークカードをサポートするように改良されています。
13	QCCR1A152747	opctrapi は次の処理を実行するように改良されています。 <ul style="list-style-type: none"> • SNMPv3 トラップと情報メッセージの両方を傍受します。 • varbind のオブジェクト ID (OID) と位置に基づいて、SNMP トラップを傍受します。 • OID をそのテキスト表現に変換します。
14	QCCR1A155140	Linux プラットフォームで、論理ボリューム メトリックがサポートされます。
15	QCCR1A157392	cachemem パラメータのドキュメントが改良されました。
16	QCCR1A159506	HP-UX システムで、64 ビット モードをサポートするように HP Operations Agent が改良されています。
17	QCCR1A168188	HTTPS 通信に対して、HP Operations Agent 12.00 が TLS バージョン 1.2 をサポートします。
18	QCCR1A169444	stacktrace ツールが /opt/OV/OMU/adminUI/conf/servicemix/wrapper.conf ファイルを上書きしません。
19	QCCR1A169894	次のコマンドを実行して、perfstat.tar.z 出力ファイルを oa_data_collector.sh 出力から除外できます。 Windows の場合:

		<p>oa_data_collector_win.bat ADC EXCLUDE PCC</p> <p>HP-UX/Linux/Solaris の場合:</p> <pre>oa_data_collector.sh -asp -e pcc</pre>
20	QCCR1A169895	<p>oa_data_collector.zip の作成中に、次のファイルが oa_data_collector.sh スクリプトに含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • "/etc/resolv.conf" • "/etc/nsswitch.conf" • "/etc/hosts" • "/etc/networks"
21	QCCR1A169897	<p>コンソール上の HP Operations Agent インストールメッセージで、バージョン (ベース、パッチ、またはホットフィックス) 情報がバナーに含まれます。</p>
22	QCCR1A172620	<p>SNMPトラップインターセプタは、varbind のオブジェクト ID に基づいて、SNMPトラップを傍受するように改良されています。</p>
23	QCCR1A173297	<p>HPOM for Windows 管理サーバーで、登録時の OvPmad データベースの一貫性チェックが oainstall.vbs スクリプトと統合され、-i-m コマンド オプションによってデフォルトで起動されます。登録時に破損があった場合は、エラーがレポートされ、そのプラットフォームでの登録はスキップされます。</p>
24	QCCR1A174024	<p>HP Operations Agent インストールの事前チェックが改良されています。</p>
25	QCIM1A174134	<p>SNMPトラップインターセプタ (opctrapi) が、次の処理を実行するように改良されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNMPv3トラップと情報メッセージの両方を傍受します。 • varbind のオブジェクト ID または位置に基づいて、SNMPトラップを傍受します。 • OID をそのテキスト表現に変換します。
26	QCCR1A174615	<p>Operations コンポーネントと共に HP Operations Agent の機能が拡張され、perfd、ttd、midaemon、glance、oacore などのパフォーマンスコンポーネントを監視します。状況パラメータは、perfd、perfalarm および oacore でのみ使用可能です。</p>
27	QCCR1A174978	<p>autofs ファイルシステムが (ネットワークファイルシステムではなく) autofs としてレポートされます。また、そのシステムについて、すべてのファイルシステム メトリックが収集されます。</p>

28	QCCR1A175002	Infrastructure SPI ポリシーの SI-ZombieProcessCountMonitor ポリシー (測定しきい値) が追加され、ゾンビプロセスの数が監視されます。
29	QCCR1A175032	サービスプロセス監視ポリシーおよびスケジュールタスクポリシーが、短期および長期のピーク動作をサポートします。
30	QCCR1A175188	インストール時間があらゆるプラットフォームで大幅に短縮されています。また、シングルステップ インストーラを使用して、ベースバージョンをパッチおよびホットフィックスと共にインストールできます。
31	QCCR1A175736	HP Operations Agent が、HPVM 6.30 からメトリック情報を収集するように改良されています。
32	QCCR1A175958	パッケージと MSI スクリプトから署名を除去することで、インストール時間を短縮できます。
33	QCCR1A176406	安全な通信に使用するプロトコルを設定するには、変数 COMM_PROTOCOL を使用できます。COMM_PROTOCOL に対してサポートされている値は、TLSv1.2、TLSv1.1、TLSv1 です。
34	QCCR1A176489	デバイス マッパー統計が、ディスクメトリック クラスの一部として記録されています。
35	QCCR1A178043	SHA2 ハッシュ アルゴリズムを使用して、証明書が署名されます。
36	QCCR1A178813	Solaris ゾーンメモリの上限の有無を示す BYLS_LS_MODE_MEM メトリックが追加されています。
37	QCCR1A178816	Solaris ゾーンメモリの上限の有無を示す BYLS_LS_MODE_MEM メトリックが追加されています。
38	QCCR1A175715	メッセージが傍受される順番を定義する新しい変数 OPC_MSG_USE_OUTGOING が導入されています。

注: HP Operations Agent 12.00 の設定メトリック、導入されたメトリック、および廃止されたメトリックの詳細は、『HP Operations Agent メトリックのハンドブック』を参照してください。

廃止のお知らせ

- パフォーマンス収集コンポーネントの Windows 上のグラフィカル ユーザー インターフェイスは、HPE Operations Agent 12.xx で廃止されました。

既知の問題

各問題の参照番号は、Quality Center Change Request (QCCR) 番号です。未解決の問題の詳細については、[HPE ソフトウェア サポート オンライン](#)を参照するか、HPE サポート 担当者に直接お問い合わせください。

HPE OMi 管理パック

QCCR1A184632: Windows ノード上でパラメータを読み取るときに、OvParam.dll にパスの問題があるため、OvParam.dll を使用する HPE OMi 管理パック コレクタ プログラムが HPE Operations Agent 12.00 で動作しない。

回避方法: この問題には、ホットフィックスが利用可能です。HPE サポートに連絡し、ホットフィックスを入手してください。

QCCR8D43353: HPE Operations Agent 12.00 で、HPE OMi Management Pack for Apache Web Server がコレクタを実行できない。

回避方法: この問題には、ホットフィックスが利用可能です。HPE サポートに連絡し、ホットフィックスを入手してください。

QCCR1A184572: Perl スイッチ モジュール switch.pm に依存するコレクタ プログラムを HPE OMi Management Pack for SAP が実行できない。

回避方法: なし

注: サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、および他の製品との統合の一覧については、「[サポート マトリックス](#)」を参照してください。

パフォーマンス収集コンポーネント

QCCR1A184217: データソース名、クラス名、メトリック名、またはメトリックデータがサポートされていない特殊文字で構成されている場合、HPE Operations Agent 12.00 でデータログ機能が失敗する。

回避方法: なし

データアクセス要求がタイムアウトする

oacore プロセスは、要求がタイムアウトするよりもずっと前にデータアクセス要求を完了します。データアクセス要求は、到着した順序に完了されます。

大きいデータ (例: 200 万個のプロセスレコード) を要求した場合、**oacore** が要求を完了するのに通常よりも長い時間がかかることがあります。**oacore** が大きいデータアクセス要求を処理している間に、他の要求 (dsilog、extract など) がタイムアウトすることがあります。

回避方法: タイムアウト エラーが発生した場合、もう一度要求する必要があります。

HPUX IA システムで、HPE Operations Agent 12.00 にアップグレードした後、古いデータベースにアクセスできない。

HPUX IA システムで、HPE Operations Agent をバージョン 11.xx から 12.00 にアップグレードすると、古いデータベースファイルは次の場所に保存されます。

```
/var/opt/OV/tmp/BackUp
```

このデータは、ovcodauti1、extract といったユーティリティや、HPE Performance Manager、HPE Reporter といったレポート作成ツールではアクセスできません。

回避方法: なし

QCCR1A178825: Red Hat Enterprise Linux クラスタで、lvresize コマンドを使用して論理ボリュームのサイズを変更した後、**midaemon** プロセスによって LVM メタデータの破損が発生します。この破損は、クラスタ LVM デーモンが実行されていないノードが複数存在する場合に起こります。

回避方法: lvresize コマンドを使用する際には、**midaemon** プロセスを停止します。

QCCR1A183242、QCCR1A183163、および QCCR1A183050: サポートされていないメトリックである BYLS および TTD が Glance、OVPA や Xglance ヘルプ ページに表示される。

回避方法: これらのサポートされていないメトリックは無視してください。

QCCR1A183440: DSI ログ機能で、メトリック名が LABEL フィールドにコピーされる。仕様ファイル内にあるメトリック LABEL フィールドは無視される。

回避方法: なし

QCCR1A183523: HP Operations Agent を 11.xx から 12.00 にアップグレードした後で、**extract** プログラムが DSI データソースのデータを正しいフォーマットで表示しないことがある。

回避方法: DSI データソースのデータの取得には、**ovcodauti1** が適しています。

例 `ovcodauti1 -ds <DSI data source> -o <DSI class> -l "|" -header`

QCCR8D39177: イベント ストームがある場合に、**oacore** プロセスで直線的なメモリリークが見られる。

回避方法: **oacore** は SQLite を使用して、データをデータベースに記録します。データを記録するために使用するハンドルは、パフォーマンス上の理由から決して閉じられません。そのため、一定期間データが記録されると、**oacore** プロセスのメモリの増加が見られることがあります。これは、すべてのクラスファイルがロールオーバーされると安定します (**parm** ファイル設定に基づき、時間がかかる場合があります)。

QCCR1A183608: 2-4 週間分のデータがある場合に HPE Operations Agent を 12.00 にアップグレードし、**extract** プログラムがハングアップし、**extract** 出力ファイルにアライメントの問題が発生する。

回避方法: ユーティリティコマンドを実行して、最初に記録されたデータのタイムスタンプを確認してから、**Start** 時間と **End** 時間を **extract** プログラムの一部として使用します。

インストールとアップグレード

QCCR1A185387: HPE Operations Agent 12.00 HPUX IA64 パッケージに付属する LCore ライブラリバイナリが、12.00 32 ビット バイナリではなく、古い 11.xx 32 ビットである。

回避方法: なし

HPOM for Windows サーバーで、HPE Operations Agent の登録が失敗する

HPOM for Windows サーバーで、HPE Operations Agent の登録が次のエラーで失敗します。

```
Description:(PMD97) Exception has been caught in method
COvPmdPolicyManager::AddDeploymentPackage2
ERROR: (NPREG1024) Cannot add deployment package (PD:'E:\Agent
Installer\OMWAgent_11_11\packages\WIN\Windows_X64\OVO-
Agent.xml')
to policy management server (PMAD)
Error during registration.
```

このエラーが発生するのは、%OvDataDir%\shared\Packages\HTTPS ディレクトリ内のディレクトリまたはファイルが長いファイル名またはパスを持つ場合です。

回避方法: この問題を解決するには、長いファイル名のファイルまたはディレクトリを削除してから、登録を再実行します。

HPOM for Windows サーバーで、デプロイ可能パッケージのインストールが失敗する

HPOM for Windows サーバーで、デプロイ可能パッケージのインストールがエラー 103 - PMAD 破損エラーで失敗します。

回避方法: この問題を解決するには、PMAD データベースをクリーンアップする必要があります。**ovpmad_dbcleanup** スクリプトを使用して、PMAD データベースから破損したエントリを削除します。**ovpmad_dbcleanup** スクリプトは、HPOM for Windows サーバー専用です。

詳細については、『HPE Operations Agent and HPE Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』の「Troubleshooting」の章を参照してください。

QCCR1A180762: HPE Operations Agent 12.00 がインストールされている Windows x86 システムに HPE Performance Manager 9.x をインストールすると、HPE Operations Agent モニタコンポーネントが削除される。

回避方法: HPE Operations Agent 12.00 をシステムに再インストールして、削除されたファイルとコンポーネントをすべて回復します。

注: HPE Operations Agent 12.00 は、必ず HPE Performance Manager 9.x をインストールした後でインストールしてください。

QCCR1A181713: Windows で HPE Operations Agent 12.00 がすでにインストールされている場合、BSM Connector 9.23 のインストールが失敗します。

回避方法: Windows では、BSM Connector 10.xx を HPE Operations Agent 12.00.078 と共に使用します。

QCCR1A182916: HP-UX PA-RISC プラットフォームで HP Operations Agent を OMx からインストールすると、次のエラーメッセージが System.txt ファイルに表示されることがある。

```
(ctrl-94) Component hpsensor exited after short runtime
```

原因: 再設定シグナルは、hpsensor プロセスが完全に開始する前に送信されるため、hpsensor は終了します。

回避方法: このエラーメッセージは無視します。hpsensor プロセスは、インストールが成功した後で実行されます。

QCCR1A183304: Windows、Linux、Solaris SPARC プラットフォームで、HPE Operations Agent のアンインストール時にエラーまたは警告が表示されることがある。

回避方法: なし

Perl

HPE Operations Agent 12.00 では、組み込みの Perl コンポーネントのバージョンが 5.8.8 から 5.16 にアップグレードされているため、OvPerl 5.8.8 と OvPerl 5.16 で互換性に関する変更点と非推奨項目がいくつかあります。それが原因で、既存の Perl スクリプトが破損することがあります。Perl の各バージョンでの変更点に関するデータの詳細は、<http://perldoc.perl.org/> を参照してください。問題点とその回避方法を以下に示します。

QCCR1A185383: HPE Operations Agent 11.1x に付属する Perl 5.8 バージョンと比べると、HPE Operations Agent 12.00 の Perl 5.16 パッケージには欠落している Perl モジュールがあります。

以下に示すのは、各プラットフォームで Perl 5.16 に付属していない Perl モジュールのリストです。

Perl モジュールの名前	Linux (x86、x86_64、PPC64)	Solaris (5.10 Sparc、x86)	HPUX (PA、IA64)	AIX	Windows (x86、x86_64)
Encode-compat-MIME-Header-ISO_2022_JP	あり	あり	あり	あり	あり
Opcodes	あり	あり	あり	あり	あり
IO-Tty	あり	あり	あり	あり	NA
IPC-Run	あり	あり	あり	あり	あり
B-Flags	あり	あり	あり	あり	あり
B-C	あり	あり	あり	あり	あり
Devel-DProf	あり	あり	あり	あり	あり
Pod-Plainer	あり	あり	あり	あり	あり
Shell	あり	あり	あり	あり	あり
Switch	あり	あり	あり	あり	あり
Socket6	あり	あり	あり	あり	なし
Crypt-DES	あり	あり	あり	あり	あり

Digest-HMAC	あり	あり	あり	あり	あり
Digest-SHA1	あり	あり	あり	あり	あり
Net-SNMP	あり	あり	あり	あり	あり
Net-IP	あり	あり	あり	あり	あり
SNMP	あり	あり	あり	あり	NA
SNMP-Util	あり	あり	あり	あり	あり
SNMP-Info	あり	あり	あり	あり	NA
Proc-ProcessTable	あり	あり	あり	なし	NA
Convert-ASN1	あり	あり	あり	あり	あり
IO-Socket-INET6	あり	あり	あり	あり	なし
Authen-SASL	あり	あり	あり	あり	あり
XML-NamespaceSupport	あり	あり	あり	あり	あり
XML-SAX-Base	あり	あり	あり	あり	あり
XML-SAX	あり	あり	あり	あり	あり
XML-Filter-BufferText	あり	あり	あり	あり	あり
XML-SAX-Writer	あり	あり	あり	あり	あり
perl-Idap	あり	あり	あり	あり	あり
Algorithm-Diff	あり	あり	あり	あり	あり
Text-Diff	あり	あり	あり	あり	あり
Socket	あり	あり	あり	あり	あり
libnet	あり	あり	あり	あり	あり
File-Tail	あり	あり	あり	あり	あり
Log-Log4perl	あり	あり	あり	あり	あり
Win32-Service	NA	NA	NA	NA	あり

次に示すリストは、欠落している Perl モジュールの影響を受ける製品と、利用可能な回避方法です。

影響を受ける製品	問題	回避方法
HP Operations Smart Plug-in (HPOM SPI)	<p>互換性の問題: QCCR1A184627 QCCR1A185118</p> <p>非推奨の問題: 影響なし。</p>	<p>JBoss SPI 用の Perl スクリプトに関する問題のホットフィックスを利用できます。HP サポートに連絡し、ホットフィックスを入手してください。</p> <p>カスタムスクリプトについては、互換性のあるモジュールまたは API を使用してスクリプトを更新してください。</p>
HP OMi 管理パック	<p>互換性の問題: 影響なし。</p> <p>非推奨の問題: QCCR1A184572</p> <p>注: 作成した Perl スクリプトのサンプルがインストールディレクトリ内にあり、そのスクリプトがアクセスする Perl モジュールが存在しない場合、</p> <p>Command オプションでスケジュールタスクポリシーからそのスクリプトを実行したときに、System.txt ファイルにこのようなエラーは記録されません。</p> <p>しかし、埋め込みのスケジュールタスクポリシーで Perl スクリプトからそのスクリプトを実行すると、</p> <p>以下のエラーが System.txt ファイルに表示されることがあります。</p>	<p>HP OMi 管理パックがインストールメンテーションまたはポリシーで使用する Perl モジュールが存在しない問題について、ホットフィックスを利用できます。HP サポートに連絡し、ホットフィックスを入手してください。</p>

例:

存在しないパッケージで、単純な Perl スクリプトを使用して、"Measurement Threshold" ポリシーを次のように作成しました。

```
use test_package;
```

```
$Rule->Status(1);
```

この場合、エラーが以下のように System.txt に記録されます。

```
0:WRN:Wed Jan 13 10:52:47 2016:
```

```
opcmona (16953/140099755861760):
```

```
[OvEpPolicy.cpp:1398]:An error occurred
```

```
in the processing of the policy
```

```
'perl_policy_test'.Please check the
```

```
following errors and take corrective  
actions.
```

```
(OpC30-797) Error during evaluation of  
threshold level "New threshold level"
```

```
(OpC30-728) Execution of threshold script  
failed.
```

```
(OpC30-712) Perl Script execution failed:
```

```
Can't locate test_package.pm in @INC
```

```
(@INC contains:/opt/OV/nonOV/perl/a/lib/
```

```
site_perl/5.16.0/x86_64-linux-thread-multi
```

```
/opt/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.16.0
```

```
/opt/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl /opt/
```

```
OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl5.16.0 /opt/
```

```
OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl5.16.0/
```

```
ia64-linux-thread-multi /opt/OV/nonOV/
```

	<pre>perl/a/lib5.16.0 /opt/OV/nonOV/perl/a/ lib5.16.0/ia64-linux-thread-multi /opt/ OV/lbin/eaagt/perl /var/opt/OV/bin/ instrumentation /opt/OV/nonOV/perl/a/ lib/5.16.0/x86_64-linux-thread-multi /opt/ OV/nonOV/perl/a/lib/5.16.0 .) at PerlScript line 1. BEGIN failed--compilation aborted at PerlScript line 1. .(OpC30-750)</pre>	
<p>HP Operations Agent 12.00 と HP Network Node Manager i 10.00 の統合</p>	<p>HP Operations Agent バージョン 12.00 にアップグレードすると、統合が失敗します。</p>	<p>HP Network Node Manager i 10.10 を HP Operations Agent 12.00 と使用することをお勧めします。また、HP Network Node Manager i 10.0x を HP Operations Agent 12.00 と使用するためのパッチもあります。HP サポートに連絡し、パッチを入手してください。</p>

QCCR1A158330: コンパイルされたカスタムの CPAN モジュールと、CPAN Perl モジュールの動作がサポートされていない。

回避方法: なし

HPE Operations Smart Plug-in (HPOM SPI)

QCCR1A184627: HP Operations Agent 12.00 と Perl の非互換性の問題が原因で、JBoss SPI 検出が失敗する。

回避方法: この問題には、ホットフィックスが利用可能です。HP サポートに連絡し、ホットフィックスを入手してください。

QCCR1A185118: HP Operations Agent 12.00 を HP Operations Smart Plug-in (HPOM SPI) と使用しているときに、データソース作成およびデータログ処理の問題がレポートされる。

回避方法: この問題には、ホットフィックスが利用可能です。HP サポートに連絡し、ホットフィックスを入手してください。

注: サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、および他の製品との統合の一覧については、「[サポート マトリックス](#)」を参照してください。

他の製品との統合

QCCR1A183470: HP Reporter 4.00 が HP Operations Agent 12.00 と互換性を持たない。

回避方法: この問題には、ホットフィックスが利用可能です。HP サポートに連絡し、ホットフィックスを入手してください。

QCCR1A182144: HP Operations Agent 12.00 が BSM Connector 10.00 と共存するシナリオのサポート。

シナリオ: BSM Connector 10.00 での HP Operations Agent 12.00.05x から HP Operations Agent 12.00.078 へのアップグレード。

HP Operations Agent 12.00.05x バージョンのデータファイルやモデルファイルは、上記のアップグレード時にサポートされません。これは、この2つのバージョン間でメタデータに変更があったことが原因です。そのため、以下のファイルがバックアップされます。

Linux の場合:

バックアップの場所: /var/opt/OV/tmp/Backup/perfDBnXML

バックアップされるファイル:

```
var/opt/OV/databases/oa/*  
/var/opt/OV/conf/oa/Model/*  
/var/opt/perf/parm
```

Windows の場合:

バックアップの場所: <%OvDataDir%>\tmp\backup\perfDBnXML

バックアップされるファイル:

<%OvDataDir%>\databased\oa*

<%OvDataDir%>\conf\oa\Model*

<%OvDataDir%>\parm.mwc

QCCR1P7013: OpsA Collector のアンインストールが LCore コンポーネントに対する依存性エラーで失敗する。これは、HP Operations Agent が LCore コンポーネントに依存しているためです。

回避方法: OpsA Collector をアンインストールする前に、HP Operations Agent を必ずアンインストールしてください。

注: サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、および他の製品との統合の一覧については、「[サポート マトリックス](#)」を参照してください。

Health View

QCCR8D39589: HP Operations Agent 12.00 では Health View がデフォルトで有効なため、hpsensor は HBP 情報を 5 分おきに管理サーバーにデフォルトでプッシュします。Health View パッケージがインストールされていない環境では、HBP はエラーメッセージをスローし、そのメッセージが hpcstrace.log ファイルに書き込まれます。

回避方法: 管理サーバーを Health View サーバーとして使用しない場合は、次のコマンドを使って Health View サーバーを設定してください。

```
ovconfchg -ns agent.health -set OPC_SELFMON_SERVER <health view sever IP address>
```

環境内に Health View パッケージが設定されていない場合は、次のコマンドを使って HBP を無効にします。

```
ovconfchg -ns agent.health -set OPC_SELFMON_HBP FALSE
```

詳細については、『HP Operations Agent ユーザーガイド - Health View』の「HP Operations Agent Health View の設定」の章を参照してください。

HPE Computesensor

QCCR1A186595: hpsensor のメトリックストリーミング設定ポリシーに記述された収集間隔が更新されない。

回避方法: なしデフォルトの収集間隔は 10 秒です。

QCCR1A186861: 同じメトリックが、別のポリシーの別のインスタンスに付随する場合、カスタムメトリックツールはメトリックを統合すべきである。

回避方法: なし

QCCR1A186919: `oacore` が実行されている場合、`hpsensor` へのデータ送信が失敗する。

回避方法: `hpsensor` にデータを送信するには、`oacore` が実行中であることが必要です。

その他

QCCR1A175479: Linux マシンで RPM ファイルをインストールしているときに、警告メッセージの「<Header V3 RSA/SHA1 signature>:NOKEY, <key ID>」が各コンポーネントのログファイルに現れることがあります。

例:

HP Operations Agent 11.14 のインストール中に、次のメッセージが `oainstall.log` および `oapatch.log` に現れることがあります。

```
Warning: /var/opt/OV/installation/standalone/HPOvXpl.rpm: Header V3  
RSA/SHA1 signature: NOKEY, key ID 5ce2d476
```

```
Warning: /var/opt/OV/installation/standalone/HPOvBbc.rpm: Header V3  
RSA/SHA1 signature: NOKEY, key ID 5ce2d476
```

回避方法: HP Operations Agent をインストールする前に、次のリンクの手順を使用して、HP 公開キーをインポートします。

<https://h20392.www2.hp.com/portal/swdepot/displayProductInfo.do?productNumber=HPLinuxCodeSigning>

HP 公開キーをインポートしたくない場合は、ログファイルに表示されるメッセージを無視してください。

QCCR1A168077: `SYSTEM_ID` メトリックの長さが 64 文字より長い場合、Windows の HPOM サーバーコンソール上で Infrastructure SPI アラートの割り当てが機能しない。

回避方法: なし

QCCR1A167902: Linux で、HP Operations Agent 11.14 をインストールしたときに、`/etc/passwd` file 内のユーザー `opc_op` と、`/etc/group` 内のグループ `ovgrp` が作成されません。

回避方法: HP Operations Agent 11.14 をインストールする前に、`groupadd opcgrp` コマンドを使用して `opcgrp` グループを手動で作成します。HP Operations Agent 11.14 がすでにインストールされている場合は、次のコマンドを実行してユーザーを作成します。

```
useradd -g opcgrp -d /home/opc-op opc_op
```

QCCR1A162689: `swinstall` コマンドを使用して HP Operations Agent 11.14 を HP-UX マシンにインストールしてから、次のコマンドを使用して HP Operations Agent を再構成します。`/opt/OV/bin/OpC/install/oainstall.sh -c -a`。すると、バージョン 11.14 のエージェント コンポーネント XML ファイルの一部が、インベントリリストに表示されない。

回避方法:

次のコマンドを実行して、削除されたエージェント コンポーネント XML ファイルを復元します。

```
cp /opt/OV/newconfig/installation/inventory/*-OAHPUX_00032.xml  
/var/opt/OV/installation/inventory/
```

ここで、`OAHPUX_00032` は HP-UX パッチ ID です。

QCCR1A153010: Ubuntu オペレーティングシステムから `opcle` プロセスを再起動すると、`opcle` 複数監視テンプレート ポリシーがメッセージを送信できない。

回避方法: ロケールを `en_US.utf8` に設定します。

QCCR1A126866: 高可用クラスタ内のエージェント ノードで、HPOM ポリシーの状態が無効から有効に変化したときに、`clusterpollist` ファイルが更新されない。

回避方法: なし

HP Computesensor Standalone Packages (vPV に付属) と HP Operations Agent 12.00 の共存

シナリオ 1: VM に HP Operations Agent 12.00 をインストールした後では、HP Computesensor 2.01.004 (またはそれ以前のバージョン) のインストールはサポートされていません。

シナリオ 2: vPV 2.2 (またはそれ以前のバージョン) がインストールされているマシンへの HP Operations Agent 12.00 のインストールはサポートされていません。

シナリオ 3: HP Computesensor プロセスが中止状態

HPComputesensor 2.01.004 (またはそれ以前のバージョン) と HP Operations Agent 12.00 が動作している VM で、HPComputesensor 2.01.004 (またはそれ以前のバージョン) をアンインストールした場合、hpsensor プロセスの機能に影響が生じます。

シナリオ 4: VM (HP Computesensor がインストールされているもの) と HP vPV マシンの間の通信は、HP Operations Agent 12.00 が VM にインストールされると切断されます。

HP Computesensor Standalone Packages (vPV に付属) と HP Operations Agent 12.00 の共存の詳細については、『HP Operations Agent and HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure Installation Guide』を参照してください。

制限事項

- HP-UX システムで、HP Operations Agent のインストール中に glance のキャラクタモードのインターフェイスを開くと、glance コンソールに次のエラーメッセージが表示されます。

```
Glance fatal error.== Fatal Nums Error ==
```

このエラーは無視してください。

- HP Operations Agent を Windows システムにインストールすると、HP ソフトウェア E/A エージェント、HP ソフトウェア測定インターフェイス、HP Software Performance Core、HP Operations エージェント プログラムなどのいくつかの新しいプログラムが [プログラムと機能] ([プログラムのアンインストールまたは変更]) ウィンドウに表示されます。[プログラムと機能] ウィンドウを使用して HP Operations Agent をアンインストールしているときは、必ず **[HP Operations Agent]** を選択し、インストール後に追加された他のプログラムはすべて無視してください。
- AIX では、ローカルファイルシステムの FS_SPACE_RESERVED メトリックは通常ゼロです。これは、AIX ではスーパーユーザーに対してファイルシステム領域がデフォルトで予約されないためです。
- デュアルスタックのリバースチャネルプロキシで IPv4 スタックが構成されている HPOM サーバーは、IPv6 スタックの HP Operations Agent ノードと通信できません。その逆も同様です。
- パッチ **OALIN_00032** を登録するには、その前に以下のコマンドを使用して、HPOM Windows サーバーを 11.13 以上にアップグレードする必要があります。
cscrip oainstall.vbs -i -a
- メトリックの論理ボリュームクラスを無効にすると、GBL_NUM_VG メトリックはゼロを示します。
- Solaris の非グローバルゾーンおよび AIX WPAR では、パフォーマンス収集コンポーネント、GlancePlus、および RTMA で以下のメトリッククラスがサポートされません。
 - CPU クラス (BYCPU)
 - ディスククラス (BYDSK)

- スワップ クラス (BYSWP)
- 論理ボリューム (LVM)
- 論理システム (BYLS)
 - メモ: さらに AIX WPAR では、パフォーマンス収集コンポーネントが NFS メトリック クラスのメトリックをサポートしません。
- Solaris の非グローバルゾーンでは、パフォーマンス収集コンポーネントで次のメトリックがサポートされません。
 - GBL_DISK_TIME_PEAK
 - GBL_DISK_REQUEST_QUEUE
 - GBL_CPU_WAIT_UTIL
 - GBL_DISK_PHYS_IO_RATE
 - GBL_DISK_PHYS_READ_RATE
 - GBL_DISK_PHYS_WRITE_RATE
 - GBL_DISK_PHYS_BYTE_RATE
 - GBL_DISK_PHYS_WRITE_BYTE_RATE
 - GBL_DISK_VM_IO_RATE
 - GBL_MEM_SYS_AND_CACHE_UTIL
 - GBL_SWAP_SPACE_AVAIL
 - GBL_SWAP_SPACE_RESERVED
 - GBL_SWAP_SPACE_AVAIL_KB
 - GBL_SWAP_SPACE_MEM_AVAIL
 - GBL_CPU_CYCLE_ENTL_MIN
 - GBL_DISK_UTIL_PEAK
 - GBL_DISK_PHYS_READ_PCT
 - GBL_CPU_WAIT_TIME
 - GBL_DISK_PHYS_IO

- GBL_DISK_PHYS_READ
- GBL_DISK_PHYS_WRITE
- GBL_DISK_PHYS_READ_BYTE_RATE
- GBL_DISK_PHYS_BYTE
- GBL_DISK_VM_IO
- GBL_MEM_CACHE_HIT_PCT
- GBL_SWAP_SPACE_USED
- GBL_SWAP_SPACE_UTIL
- GBL_CPU_MT_ENABLED
- GBL_SWAP_SPACE_DEVICE_AVAIL
- GBL_CPU_CYCLE_ENTL_MAX
- TBL_PROC_TABLE_UTIL
- TBL_FILE_LOCK_USED
- GBL_ZONE_APP
- 次のメトリックの場合、パフォーマンス収集コンポーネントは非グローバルゾーンでグローバルゾーン値を示します。
 - GBL_MEM_DNLC_HIT_PCT
 - GBL_FS_SPACE_UTIL_PEAK
 - GBL_NET_PACKET_RATE
 - GBL_NET_IN_PACKET
 - GBL_NET_IN_PACKET_RATE
 - GBL_NET_OUT_PACKET
 - GBL_NET_OUT_PACKET_RATE
 - GBL_NET_COLLISION_RATE
 - GBL_NET_COLLISION_PCT
 - GBL_NET_DEFERRED_PCT

- GBL_NET_ERROR_RATE
- GBL_NET_IN_ERROR_PCT
- GBL_NET_IN_ERROR_RATE
- GBL_NET_OUT_ERROR_PCT
- GBL_NET_OUT_ERROR_RATE
- GBL_NET_COLLISION_1_MIN_RATE
- GBL_NET_ERROR_1_MIN_RATE
- GBL_RUN_QUEUE
- GBL_LOADAVG
- GBL_LOADAVG5
- GBL_BLOCKED_IO_QUEUE
- パフォーマンス収集コンポーネントは、非グローバルゾーンで、次のメトリックに対して常にゼロを報告します。
 - GBL_NUM_DISK
 - GBL_NUM_LS
 - GBL_NUM_ACTIVE_LS
 - GBL_NUM_DISK
- Linux で次のメトリックが記録されるのは、SUSE Linux Enterprise Server 11 および Red Hat Enterprise Linux 5.4 以上の場合のみです。
 - APP_DISK_PHYS_IO_RATE
 - APP_DISK_PHYS_READ
 - APP_DISK_PHYS_READ_RATE
 - APP_DISK_PHYS_WRITE
 - APP_DISK_PHYS_WRITE_RATE
 - APP_IO_BYTE
 - APP_IO_BYTE_RATE

- UNIX/Linux プラットフォームで man ページを表示するには、MANPATH 変数に次の場所を手動で設定する必要があります。
 - AIX の場合: /usr/lpp/OV/man、/usr/lpp/perf/man
 - HP-UX、Solaris、Linux の場合: /opt/OV/man、/opt/perf/man
- ポリシー名に: 文字が使用されている場合、そのポリシーを ovpolicy コマンドで有効または無効にすることはできません。
- ソースが組み込みパフォーマンス コンポーネントに設定されている測定しきい値ポリシーで、PROCESS オブジェクトを SCOPE データソースとともに使用することはできません。
- 非デフォルト ユーザー (root 以外のユーザーまたは権限のないユーザー) を使用する場合の制限事項
 - 権限のないユーザー モードは HP-UX プラットフォームではサポートされていません。
 - 混合モードは HPOM 管理サーバーでサポートされています。
 - 権限のないモードおよび混合モードは AIX WPAR ではサポートされていません。
 - デフォルトでは、権限のないユーザー モードおよび混合モードのエージェント ユーザーは、監視対象のログ ファイルの読み取り権限がありません。
 - デフォルトでは、権限のないユーザー モードおよび混合モードのエージェント ユーザーは、自動コマンド、オペレータ起動コマンド、ツール、予定タスクを使用してプログラムを開始する権限がありません。
 - 権限のないユーザー モードおよび混合モードのエージェント ユーザーに管理者権限がない場合、HP Operations Smart Plug-in では設定やユーザー権限を追加する必要があります。
 - より高い権限で実行されるプロセス (ovbbccb、sshd など) は、権限のないモードでは実行できません。
 - Windows の場合、エージェント ユーザー以外のユーザーに所有されているプロセスで、PROC_USER_NAME メトリックは Unknown と表示されます。
 - AIX の場合、デフォルトではないユーザーを使用するようにエージェントを設定すると、コマンドライン コンソール (または /var/opt/OV/log ディレクトリの oainstall.log ファイル) に次のエラーメッセージが表示されることがあります。
Product activation failure.Refer to the log file for more details.
このエラーは無視してください。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

リリースノート (Operations Agent 12.01) に関するフィードバック

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hpe.com 宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。